

浜松地域貢献プロジェクト
「地域住民や子ども達と浜松凧を揚げよう！」
活動実施報告書

浜松学院大学 浜松凧を揚げようの会

代表 岡野陽向

〈目的〉

浜松凧を使用している「浜松まつり」は近年若手住民の参加の減少、初子祝いの希望世帯の減少が課題であると言われている。浜松凧について、その作り方や伝統を研究し実際に子ども達や大学生、地域住民と作ったり作った凧を揚げたりすることで伝統的な浜松凧の魅力と実際に大凧を揚げることにより感動体験を通して今後の浜松まつり参加人口増加に向けて貢献することを目的とする。

またコロナ渦の中、本学の活動が中心となって様々な人々と関わり浜松大凧を揚げることで浜松を盛り上げる発信機となり「やрмаいか精神」を持って元氣と勇氣を与えることを第2の目的とする。

〈方法〉

この活動はコロナ終息を願う大凧の作成および作成した大凧を、中田島凧揚げ会場で行われる全国凧揚げ浜松大会にて揚げることを目指すものである。大学生、小学生や地域住民と共に協力しながら活動する。

凧揚げ大会の参加を2021年の目標とし、2020年度は以下の3点を予定する。

- (1) 1点目は大凧作成時に使う材料の真竹を12月上旬に採りへ行く。
- (2) 2点目は、2021年1月中旬～下旬ごろ「浜松凧作り教室」を小学生を対象として開催することにより、子ども達に浜松凧への興味関心を高めてもらう。
- (3) 3点目は本学学生の協力者をつのり、学内で安全に揚げられる5本組サイズ(60mm四方)小凧製作を行い大学構内で実際に凧揚げを行うことで、凧作りから凧揚げの一連の活動の流れを体験する。

〈実施内容〉

計画では、上記記載のように本学内で活動予定だったが新型コロナウイルスによって遠隔授業や本学内での活動が禁止されたため、1グループ学生1名をおき浜松市内の広い公園で「浜松凧揚げ教室」を開催した。また、新型コロナウイルス感染予防を徹底した上で実施を嚴重に努めた。

他県からの転勤族の方は「浜松に来てまだ半年だから、このような形を通して少しでも浜松の文化を知れて良かった。」と述べた。すべてのグループではないが、凧という文化を揚げることを通して楽しんでくれたと考える。実際に綺麗に凧が揚がった際の子どもの表情は想像以上に充実感を得ている様子だった。

反省点

- ・アポの取り方

お渡しから凧揚げまで1日で済ましたため、それまでのアポの取り方が困難であった。

- ・リモートで作り方を教える際

直接ではできなかつたので、余計に難しく感じた。

良かった点

- ・担当した家族がとてもフレンドリーで実際に会って凧をあげるときたくさんコミュニケーションをとれたこと。
- ・子どもに喜んでもらったこと
- ・凧揚げ当日喜んで凧をあげてもらえたのがとてもうれしかった。
- ・凧揚げ当日に初めてお会いした親子が楽しそうに凧揚げを行ってくれたこと。
- ・紙に絵を書いてもらったりして、楽しそうに工作をしているところが見れて良かった。

〈成果〉

☆1、今回の活動だけでもこのような、良かった点、反省点がうまれた。確かに ZOOM や LINE 通話といった画面越しで会っていたとしても伝わらない部分がたくさんあった。時には、こちらから提示している内容とは別の方向で案を出してくる、というような考えてもいなかった事を経験した。事前にあらゆる分野でおこるトラブルを考えておけばスムーズに進んだと考える。また担当学生も初めてのことで、私からの伝えも伝わらなかったことに反省したい。そして、人に伝えるということは「何が」「どう」「どのように」の3つの点を明確に伝えることが大事なのか改めて学んだ。

☆2、今回、子ども達は学内での学びでなく家族と支援者をパソコンで繋いでの活動、公園での活動など小学校外の活動であった。また親同伴な為、少し甘えている部分が見られた。個々の子ども達は早く心を開き担当学生に子どものほうから話しかけている様子が多々見られた。幼稚園や学校で見る子ども達の姿より、自然体であった。自分の興味があるものに対して好奇心旺盛だったと思う。

☆3、なお、計画の(1)真竹採取(2)子どもイベント(3)大学生の凧揚げのうち(1)(3)については、新型コロナの影響により今年度実施できなかった。

来年度の課題の一つとしたい。

活動の様子



